



平成27年9月
第36号

発行責任者
首都圏段戸会
会長 野村親信
編集発行人
広報担当 村木央明

会長挨拶

首都圏段戸会会長

野村 親信 (高16回)

現在世界が抱える最も大きな問題は、急激なグローバル化の加速と、地域・宗教等の価値観の違いから、世界各地で起きている政治的・経済的軋轢や紛争であります。また、世界中のどこかで頻発する地震や津波等の自然災害も、

急速な文明化が地球にもたらしてきた環境破壊が原因の一つであるような気がいたします。

この様に様々で複雑な問題をはらむ不安定な社会においては、世界の急速なグローバル化の潮流に対応できるような柔軟な人材の育成が必要になります。

我が岡崎高校は、その前身である愛知県第二尋常中学校が明治29年（一八九六年）4月に当時の岡崎村大字針崎の地に設立されましたので、来年で創立百二十年を迎えます。その間本校は、長い歴史と伝統を受け継ぎ、実に四万二千人に達する卒業生を輩出し、その卒業生達はあらゆる分野で活躍の場を広げ輝かしい実績をあげてきました。特に最近では、確固たる教育方針のもとグローバル化のニーズに対応できる前途有為な人材を送り続けてきています。

また本校は学業の充実はもちろん、課外活動にも力を入れ、一昨年3月には「科学の甲子園全国大会」において総合優勝を成し遂げました。全校生のほとんどが少なくとも一つのクラブに所属し活発なクラブ活動を行っていることも、幅広い教養とチャレンジ精神に満ちた人材を育てることに繋がっていると思います。そして、岡崎高校のもう一つの強みは同窓会組織であります。岡崎本部の同窓

会を中心に、関西地区の「矢作会」が今年で百周年を迎えましたし、首都圏段戸会も設立されてから43年が経過し、近ますます活発な活動を行い同窓生の絆を深めています。

首都圏段戸会は、年一回の総会・懇親会の他に、ホームページの維持や年二回の会報発行、講師を招いての時々の勉強会の段戸フォーラムや現役岡高生との交流を目指すオープンキャンパス、趣味の会の段戸サークル等の様々な活動を行っています。今年の総会・懇親会は10月31日（土）に行われますので、皆さん是非参加いただき先輩・後輩の垣根を越えた交流の輪を広げていただきたいと思います。

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

「段戸囲碁会」

(代表幹事：藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp
*本号6ページに活動報告が掲載されています。

「段戸音楽会」

(幹事：石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com

「段戸句会」

(幹事：小森 葆子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp

「段戸山の会」

(幹事：満江 信之 高15回) nmitsue@ae.auone-net.jp

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい。

首都圏段戸会

検索

【入会の方法】

入会を希望する方は、次のステップで入会手続きを進めて下さい。

- Step1 ホームページの左側にあるメニューボタンの「会員登録・変更」を押す。
- Step2 「首都圏段戸会 会員登録のページ」が出ます。
- Step3 フォーマットにそって各項目に入力して下さい。(できるだけ「任意入力項目」についても、入力して下さい。)
- Step4 を押す。

第43回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 平成27年10月31日（土）13：00～16：30

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段下北4-2-25（TEL 03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分



●講 演 会 タイトル：安倍政権の安全保障政策と政治報道
講 師：佐藤千矢子（高35回） 毎日新聞社論説委員

集団的自衛権の行使容認など戦後の安全保障政策を大きく転換する政策が次々と打ち出され、憲法改正に向けた議論も現実味を帯びています。安倍政権はどんな安全保障観をもち、何を成し遂げようとしているのでしょうか。安全保障関連法案の成立で、どんな変化が予想されるのでしょうか。

賛否両論が分かれるテーマですが、新聞記者としての現場取材をもとに、賛否を超えて具体的な報告をいただきます。併せて、政治報道の現状や問題点などについてご指摘いただきます。

（略歴）

名古屋大学文学部卒。1987年、毎日新聞社入社。長野支局を振り出しに、1990年以降、主に政治部畑を歩み、首相官邸、自民党、厚生労働省、外務省などを担当。2001年の米同時多発テロ直後から3年半、ワシントン特派員として、イラク戦争、ブッシュ氏再選の大統領選などを取材した。政治部副部長、政治部編集委員を経て、2013年4月から論説委員として、外交・安全保障を担当。集団的自衛権の問題では、国会、首相官邸、国家安全保障局、外務省、防衛省、内閣法制局などを取材しながら、社説の執筆にあたった。

●会 費 男 性 8,000円 女 性 6,000円

ただし、以下の会員には特別割引があります。

古稀を過ぎた会員（高15回以前）	5,000円
若手会員（高53回以降）	5,000円
学生会員（高53回以降の大学、大学院、専門学校等の学生）	1,000円

●ご 招 待 古稀年次（高16回）の方は、ご招待申し上げます。（会費無料）

●招聘恩師（予定：敬称略）

飯田 皖子（社会）	小嶋 輝久（英語）	鈴木 弓子（数学）
高井 俊直（生物）	尾崎 浩仁（体育）	

お知らせ

今回新たに、総会会場において、次回総会の招聘恩師について、皆さんのご希望をお聞きすることになりました。受付でお渡しする所定用紙に、お招きしたい先生の名前を書いて、会場内の回収箱に入れて下さい。

人生お楽しみ中!

今やるべきことを全力でやる

高13回 新実 昭治

新緑の輝く北鎌倉駅前の蕎麦屋で、高13回の同期生男女11名が昼食を楽しんだ。快晴に恵まれた4月23日(木)は恒例となった年2回の鎌倉散策である。若々しい仲間と歴史を感じさせるテーブルに座り、お品書きを見ながら好みのそばを注文した。

隣に座った中浩之君は首都圏段戸会の高13回世話人である。彼が「新実君、今何かやっているの?」と笑顔で聞いてきた。私は、素直に「居住している相模原の歴史を気の向くまま調べたり、好きな本を読んだり、囲碁を並べたり、放送大学で、半期2科目の講義を楽しんでいるよ!」と応えた。「頑張っているね。放送大学では何を勉強しているの?」と突っ込まれ、「放送大学エキスパート(認証制度)」を目標にして勉強している。既に、ものづくりMOT(マネージメント・オブ・テクノロジー)の認証は取得したよ! 今は、社会生活企画の認証を目標にテレビやラジオで講義を受けている。そうそう、科目、問題解決の進め方では、同期生の大林康二教授が講師だった。彼の講義は分かり易く、私も真剣に勉強した」と少し自慢げに説明した。中君が突然、「首都圏段戸会会報に寄稿して欲しい」と依頼してきました。唐突で一瞬戸惑いましたが引き受けるこ

とにしました。

生涯学習は、同期生なら皆がやっていることですが、私は、現役引退後、時間をどのように使ったらいかが散々迷いました。私なりにチャレンジしたことを紹介します。

我が人生目標を改めて考えることからスタートし、目標が定まると、年間・月間計画が大雑把に見えてきた。今日やるべきことをルーチン化することにより生活パターンができ、その後、数回の見直しを実施して、やっと落ち着きました。

70歳前後の頃、すぐ忘れる、人の名前が出てこない等で、不安な気持ちになったことがあります。しかし、結晶性能力は年齢に関係なく成長することを知り、心に留めたいことは繰り返し実行しています。その威力を肌で感じてから、老化現象を素直に受け入れることができ、ポジティブに明るい日々になりました。今一つ心がけていることは、「今やるべきことを全力でやる」ことです。おかげで、後悔や憂い、そして迷いが少なくなりました。



人生を楽しもう!

高16回 大山 達雄

同期の友人と行きつけのおでん屋でお酒を飲みながら話していたときに「人生お楽しみ中」の原稿を頼まれた。「人生に苦しみ、悩んでいる小生には合わないのでは?」と応えた。あなたがそうとはとても思えないから書けとのこと。そうかも知れないと思い、書くことにした。

人生を楽しむには? なんて問いには答えられない。悲しみ、苦しみ、悩みは自分が何もしなくても突然にやって来るものだ。それに対して、楽しみ、幸せは自分が努力してつかむものだろう。

今、小生は古稀を迎えようとしている。35歳の時にそれまでの研究所勤務から大学に移り、それ以来ずっと大学だから、小生の人生の半分以上は大学生活ということになる。ツライくらいはあったかも知れないが、不思議とイヤダとか、モウヤメタと思ったことはない。そうかと言って何が特に楽しかった、満足したということもない。ただ言えることは毎日毎日、毎年毎年の繰り返し、積み重ねが今に至っており、それが楽しかったか、苦しかったかと問われれば、やっぱり楽しかったというのが当たっている気がする。

小生の専門はオペレーションズ・リサーチという学問分野である。各種データをを用いて合理的、科学的、そして最適な意思決定をすることによって、各種の戦略策定、政策策定に貢献するにはどうすれば良いかということに関する理論、

手法、応用を考えることである。だから、勤務する大学院の学生達には、自分の関心を持つ問題に対して可能な限りデータを集めて、それを加工し、処理し、色々な手法、理論を駆使して綿密に分析することによって自分なりの主張、結論を導き、それを検証、実証するようにと指導し続けて35年ということになる。それが結局、自分自身の満足、楽しみ、幸せにつながるはずだからと言いつつ。

小生自身、コレクションはフクロウ、女優は宮崎あおい、相撲は白鵬、落語は柳家小三治、作家は水村美苗と興味・関心を持ちつつ、そして週末はソバ打ちとテニスとソフトボールと、すべてデータを収集しつつ、目標を追いかけながら自己満足に耽っている。それが「人生お楽しみ中」の源になっていると思いつつ、信じつつである。

最後に、お粗末な原稿をお詫びしつつ、それでもやっぱり人生楽しもうつつ、



フクロウのコレクションと一緒に

なぜこの仕事を？—エンジニアリングの巻

高59回 谷繁 樹林

私は三菱重工業でH-IIAロケットの設計エンジニアをしています。現在入社2年目で、ロケットの飛ばし方、つまり種子島宇宙センターの発射場から宇宙空間への飛行経路を設計する業務に携わっています。飛行経路設計は、搭載する人工衛星からの要求/ロケットの諸元/安全に関わる制約など様々な条件を満たして打上げミッションを成立させる解を導く仕事であり、まだまだ理解すべきことはたくさんありますが、自分がロケットについて日々詳しくなっていくことによりがいを感じています。そして、一番のやりがいと言えばやはり、ロケットの打上げに立ち会う瞬間です。今年3月のH-IIA28号機の打上げは入社以降初めて種子島で見届けることができました。轟音とともに打上がるロケットの迫力は何度でも見たくなります。

さて、なぜこの仕事を選んだかというところ「気軽に宇宙へ行ける世の中にして、自分自身も宇宙へ行ってみよう」という目標があるからです。宇宙開発に興味を持ったきっかけは小学1年生の時、宇宙飛行士の若田光一さんがスペースシャトルに搭乗して初めて宇宙飛行したのをテレビで観たことでした。その後、中学ではH-IIAロケットの打上げを種子島で見学したり、授業でNASA（現在のJAXA）筑波宇宙センターへ職員インタビュートに行ったりしました。大学では航空宇宙工学を専攻し、大学院ではJAXA

XA宇宙科学研究所で極超音速空気力学の研究をしていました。就職の段階では、博士課程や全く別の道に進むことを真剣に検討しましたが、最終的に自分自身の目標に近づくにはロケット開発の最前線で経験を積むのが重要だと考えてこの仕事を選びました。

「気軽に宇宙へ行ける」までにはまだ遠い道のりがありますが、ここ数年、宇宙開発の状況が少しずつ変化していることは感じています。アメリカでは民間ファンドによる宇宙開発が急速に拡大しており、日本でも従来の研究開発主体から社会インフラや安全保障として宇宙開発利用が位置付けられるようになってきました。まだ割合は多くないですが、私の業務でも海外顧客向けの活動が増えてきました。今後もエンジニアとしてのスキル・知見を自分自身のコアとして培いつつ、時流を読み、宇宙環境を当たり前のよう利用する世の中を創っていきたいと考えています。そして将来は宇宙へ！

高58回 鳥山 順丘

私はプラントエンジニアリング業界でごみ焼却炉の設計に携わっています。「プラント」という言葉に馴染みがない方が多いと思いますが、辞書で引くと「生産設備一式。大型機械など。」と書かれています。プラントには石油天然ガス採掘・精製、食品、製鉄、発電プラントなど様々な種類があります。例えばごみ焼却プラントというと、ごみを燃やす焼却炉本体、排ガスを無害化する設備、灰を処理する設備など多くの機械を組み合わせてごみ焼却プラントとしての機能を発揮します。このように様々な機械を組み合わせてある目的を達成する設備一式がプラントです。そのプラントの企画、設計、調達、施工、施工管理を一括して請け負うのがプラントエンジニアリング業です。プラントを構成する機械にはそれぞれ専門のメーカーがありますが、私たちはこれらのメーカーをまとめ上げ一つのプラントとして完成させます。

プラントの設計では化学、機械、土木建築や電気など各分野の専門家がチームとなってプロジェクトを進めます。さらに工事に関わる人たちを含めるとプラントを作るのに関わる人の数は数え切れません。このような、大きなものを大人数のチームで協力しながら作り上げていく仕事に憧れて、プラントエンジニアリング業界に進むことを決めました。

私の部署ではひとつのプロジェクトを、立上げからお客様への引き渡しまで一貫して担当します。普段は本場で設計をしています。それに加えて予算管理や工程管理、他部署・メーカー・お客様との

打ち合わせも行います。工事が始まれば、時には安全靴を履き、ヘルメットをかぶり現場に起きます。工事が終わったら今度は試運転を行い、求められた性能を発揮するか確認します。机上での設計とは違い、現場ではものが動きます。細心の注意を払って設計をしますが、実際に動かすと意図と違う動作をしたり、設計変更が生じたりします。そのような状況を打開しながら試運転をうまく進めることが頑張りどころであり、現場の楽しさでもあります。

昨年は、2012年の入社以来ずっと携わっていたプロジェクトの試運転で半年間現場に常駐していました。自分で設計したプラントが無事に完工したときの達成感は格別でした。今はその経験を活かした次のプラントを設計中です。自分達の作るプラントが多くの人の生活を支えているという誇りを持ち、これからも精進を続けていきたいと思っています。



ごみ焼却プラントの前で（筆者は左から3人目）

新企画 首都圏段戸会の歩み

草創期を支えられた皆さん

高2回 服部 登

昭和13年(1938年)市立三島小学校へ入学、昭和19年(1944年)敗戦色濃厚な時に憧れの県立岡崎中学へ入学。2年生になる寸前の同年初冬に学徒動員で日清紡績美合工場の軍需工場へ。勉強そっちのけで、中学1年生の12、13歳の子供が飛行機の製造に駆り出されたのから、今から思えばそんな戦闘機に乗せられた少年飛行隊も大変だったのではと、在京の同級会を毎年12、3名が集まって語るのも変な時代の思い出話で終る。

然し、敗戦後は学校に帰っても、体育館の瓦礫整理やら、校庭の軍馬の防空壕の穴埋めと勉強はそっちの約半年を過ぎ、昭和22年(1947年)3月の学制改革による6・3制の義務教育のスタートと、昭和24年の学区制施行で男女共学が始まり、当時の女学校が北高になり、住居



高2回の皆さん(第41回総会:筆者は右から2人目)

の場所の関係で同級生の約半分が移動させられ、大変な時代を過ごし経験させられた。今笑い話で

済ませるが、移動させられた御本人は恨み節で今も何故俺がと悔しがる言葉が出る。同級会の案内を出しても、俺は北高卒だからと、いまだにひねくれている人もおり、トラウマが抜けない同級生がいるのも、時代の変化に翻弄させられた被害者の年代です。

岡高で最初の甲子園出場は、昭和24年春の選抜が最初ではないかと思うが、当時のピッチャーは、三島小学校から同級の渡辺巨男で、遊び半分でキャッチボールをしていたら、監督になった筒山先生に、ボールの切れがすごいと言われ、その気になって練習し、秋の県大会の勝率が良くて、出場したと思います。当時は道具もなく、キャッチャーのプロテクターに座布団を使っていた記憶があり、現在の高校野球を見ては、贅沢な時代が来たと思います。いずれにしても戦前の中学野球では、愛知県下では岡中は一位置かれる存在だった様で、プロ野球、六大学野球でもかなりの人がプレーをしています。

今も毎年春・夏の高校野球地区予選が始まると、関東地区予選をTVで見ながら「岡中、岡高は強かったなあ」と感慨無量に、昔を懐かしく思う様になったのは年の所為か。ネットで岡高の予選通過を見ながらの応援をしている始末です。首都圏段戸会の始まりは、其の野球部の関係者の方々のお骨折りで始まったと聞いています。

野球部部長だった中学26回(大正14年卒業)の北岡健二先生の発声で、在京の野球部関係者に呼びかけられ、お互いに知り合いを誘って、第1回総会が昭和47年8月に学士会館で38名参加して、首都

圏段戸会が発足したとの記録が残っています。会の取り纏めは高島屋工作所専務をされていた太田鎌二さん(中学32回)が初代の会長を勤められ、以来、途切れる事も無く継続し今日に至っております。

その後、会場は松本楼、松屋サロンと変わり、松屋サロンは榊春夫さん(中学40回)が支配人として勤務されていた関係で、昭和50年から55年迄使わせて頂くという様に、岡中、岡高卒業生の方々の協力を得て継続して来ました。

其の間、平成2年に第1号の会報を発行しましたが、私の手元には第1号からの会報と昭和59年10月現在の首都圏在住者名簿(発行代表者 宮島駒夫(中学50回)、編集者 三島元(高8回)、首都圏段戸会のあゆみ記録(第1〜26回)があります。

恩師招聘が始まったのは第9回(昭和56年11月)農林年金会館からです。第15回(昭和62年11月)からは経費の関係で、神谷和郎さん(中学47回)が支配人をされていた、メルパルクに会場を変更しました。

思い出を話し出せば語り尽せないほど、先輩、後輩の方のご協力があったから継続出来たと思います。

私が此の首都圏段戸会に参加したのは第4回の松屋サロンからです。此れも、この会を継続するため、将来を見据えて、中学卒だけでなく高校卒にも呼びかけを始めようとしたためと、聞きおよんでいます。私には東海銀行在職中に1年先輩の太田八雄さん、神谷侑三さんから声を掛けられました。当時会長をされていた太田鎌二さんには、準備の打ち合わせに呼ばれては、度々、高島屋の特別食堂で

野田岩のうなぎをご馳走になり、多くの知人を呼びかけるために、名簿作成をしました。

年一回の総会開催に多くの方に参加して頂き、在京の卒業生の人脈を作ることを中心に、岡中、岡高の想い出話を語って貰えればとの考えで、途切れることなく継続して来ました。

第4回(昭和51年11月)以降は、木村博さん(高3回、中日ドラゴンズキャッチャー)が裏方として一番苦労したと思います。

稲葉さんの後任会長をされた宮島駒雄さん(中学50回)が1年目に脑梗塞で倒れ、急遽私が会長を務める事になりました。宮島さんは、その後回復され、今でも連絡があります。何とか出席できるのではと思いますが、直接電話でもして伺えばヒントがあるかと思っています。

当時の人も後期高齢者の仲間になり、殆どの先輩が不参加で寂しい限りです。今の内ならゆつくりと食事をしながら想い出話を聞く会を開催したら、意外と新しい発見があるのではないかと思います。

昭和59年作成の名簿もありましたので、まだ元気な先輩諸氏に何とか声を掛ける工夫をして、ホームページに掲載するのも面白いのではないかと愚考します。同級生の青山敦夫さん(出版関係の書籍多数)が戦中戦後の回顧録を自費出版しています。

「箸とらば 昭和7年生まれ私」 学徒動員の詳細も書かれています、是非一読をお願いします、面白いです。 駄文になりましたが、語り尽くせません。

段戸サークル活動報告

段戸囲碁会のご紹介

私が首都圏段戸会世話人会メンバーとして参加する前年の平成10年は、総会参加者は100名を切っており、いささか寂しい様相を呈していました。

翌平成11年に世話人として参画し、総会活性化担当責任者を仰せつかり、その一環として各種の趣味の会（今はサークル会と名称変更）を立ち上げました。その一つが「段戸囲碁会」です。当初15くらい（例：旅行／グルメ、英会話、野球、テニス、ゴルフ等）の趣味の会を立ち上げましたが、今は囲碁会、音楽会、俳句会、山の会だけが存続しています。

段戸囲碁会は当初は毎月、学士会館で月例囲碁練習会をやっていたのですが、時習館高校同窓生と知り合う内に、「岡崎高校×時習館高校同窓生対抗親善囲碁大会」を幹事輪番制でやろうということになり、平成19年に第1回大会を開催、



時習館高校同窓生との親善囲碁大会の熱戦風景

以後年2回開催し、この7/12で第17回目を迎えることになりました。（これまでの対戦成績は岡高の10勝6敗）会場も学

会館で行っています。同席している他の団体が居ること構いなしに、ほっかや、ほだがん、ほだよお……と東三河と西三河のさしずめ三河弁合戦となり、終了後はもっと酷い三河弁（とでもここでは書けません……）を駆使して懇親を深めています。

お陰で時習館高にも親しい友人ができて、皆さんに大変喜ばれています。

会員は高校1回生（85歳）から高校30回生（56歳）まで、棋力は3級から七段まで、試合も、ほやきあり、三味線有り、怒り無しで和気藹藹の雰囲気を楽しんでいます。

囲碁は老若男女関係なく、頭を使うため歳を取ってもボケ防止には最適だと言われています。初心者大歓迎ですのでどうぞ気楽に入会して下さい。

ご連絡お待ちしています。

ご連絡先 藤田訓弘

携帯 090-4733-4698

メール kfujita@muc.biglobe.ne.jp



対局後の懇親会
(筆者は前列左から2人目)

高13回 藤田 訓弘

士会館だけでなく、市ヶ谷の囲碁のメッカ日本棋院本部、八重洲のいずみ囲碁ジャパン等、超一流

段戸フォーラム報告（第21回）

首都圏段戸会では、経済・政治・文化・学術などの各界で活躍する会員の方を講師とした勉強会「段戸フォーラム」を定期的に開催しています。参加は自由で、平日の夕刻に会員有志が集まり研鑽を深めるとともに熱心な意見交換も行っています。

21回目のフォーラムは、本年4月6日（月）に「こんな時どうする!? 企業法務のファーストエイド」と題し、危機管理分野に強い弁護士として活躍されている中西和幸さん（高38回）にご登壇頂きました。中西さんは、平成4年3月、東京大学法学部卒業後、住友海上保険株式会社に入社（平成5年3月まで）、平成7年4月に弁護士登録をし、田辺総合法律事務所へ入所し、弁護士としてのキャリアをスタートされます。平成19年には、第一東京弁護士会総合法律研究所会社法研究部会部会長就任、平成22年5月に株式会社レナウン社外取締役就任、平成24年6月にオーデリック株式会社社外監査役に就任されるとともに、資格としてCFE（公認不正検査士）を取得、経営革新等支援機関に認定される等、企業法務のエキスパートとして活躍されています。



講師 中西和幸さん（高38回）

本フォーラムでは、中西さんがパートナー弁護士を勤められている田辺総合



法律事務所から刊行（中西さんも執筆者の一人）された「企業法務のFirst Aid Kit」を、参加者全員に！参考資料として進呈頂きました。司会の松尾が用意した「雑誌等のメディアに会

社の不祥事を暴露する記事が掲載された際の対処」についての質問を皮切りに、参加者全員から自由な質疑、赤裸々な講師からの回答という形式で進みました。本学の同窓生ならではの忌憚が極めて少ない議論が途切れないまま講演終了時間となりました。特に優秀な弁護士の見分け方について、「生兵法務」で被害を拡大しないようにするための方策について、熱い質疑応答が繰り返されたと記憶しています。

講演の後は、例回の通り、居酒屋へ移動。講演の続きの話も交えながら、ミニ同窓会としておおいに盛り上がりました。

今後も様々なテーマで段戸フォーラムを開催する予定です。都度ご案内差し上げますので、是非ご参加下さい。

（松尾）

平成27年度世話人

(高2回)服部 登
 (高3回)丹羽 鼎
 (高6回)有馬 弘政
 (高7回)是津 定利
 (高8回)杉浦 嘉久
 田中 厚生 広報
 (高9回)岡田 敏夫
 (高10回)山川 肇爾
 (高11回)永田 宏
 中根 淳
 (高12回)鶴田 文男
 成瀬 徹
 (高13回)中 浩之
 (高14回)磯尾 進
 水谷 鏡子
 (高15回)神谷 国広
 満江 信之
 (高16回)鈴木 弘恵
 野村 親信 会長

横井 昭親
 (高17回)伊与田 正彦
 山田 博子
 (高18回)伊藤 博邦
 音部 昌宏
 山内 恵 広報
 (高19回)都築 正行 会計
 福山 透 情報
 村木 央明 副会長・
 企画
 (高20回)天野 隆太郎
 辻村 貴典 会計監査
 (高21回)小栗 恵子
 山田 俊文
 (高22回)上田 洋子 副会長・
 書記
 (高23回)野々山 浩 会計
 (高25回)戸田 譲三 会計監査
 企画
 (高26回)織田 利彦 副会長・
 事務局
 (高27回)長田 光雄 会計
 岸 洋平 会計
 山崎 正枝
 (高28回)酒井 邦彦

(高30回)米津 智徳
 (高31回)高原 正之 企画
 (高34回)板谷 敏正 副事務局長・
 副企画・情報
 井上由美子 副事務局長・
 企画
 (高35回)岡田 敦嗣 会員
 菅 伸介 会員
 (高38回)中西 和幸 会計
 (高40回)大田 武 会計
 (高42回)長野 麻子 広報
 (高43回)八田 益之
 (高44回)松尾 直樹 企画
 (高45回)筒井 貴之 情報
 西浦 瑞恵
 (高46回)朝岡 大輔
 大川 博
 小椋 俊博
 (高47回)杉本 いづみ 会員
 (高48回)藤井 晋也
 (高50回)鳥居 福代 情報
 (高52回)今泉 貴雅
 清水 雄太 情報

近藤 佳子 広報
 (高53回)小野 靖王
 石井 貴大
 辻内 直子
 (高54回)安藤 康伸
 岡田 尚博
 加藤 直也
 丸山 晃正
 (高57回)川口 敦子
 (高58回)石川 航己 企画
 鈴木 菜穂子
 (高60回)篠原 国智
 杉浦 綾香 書記
 本多 健太郎
 吉村 圭吾
 (高61回)辻 翔太
 (高62回)大山 なつみ 企画
 粟津 文香
 (高64回)藤岡 進也
 細井 美裕
 (高65回)村松 旺

運営協力金のお願い

平素から首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

首都圏段戸会は、回を重ね本年第43回総会を迎えることになりました。前回総会では、中47回～高65回の皆さん約230名にご参加頂きました。これもひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝しております。

本会の特徴は、岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、現役社会人、社会人OG・OBと幅広い年次の会員が集まり、総会に加え、各種イベントの開催やサークル活動を行っていることです。

例えば、現役岡高生との交流を目指したイベント「オープンキャンパス」では、学生会員の大学生が主体となって、大学、研究室の見学、先輩の大学生・教員との懇談などを行っています。岡高生には、単なる受験対象として捉えていた大学で、「何をしたいか？」について考える機会を得られたと好評です。

また、学界、官界、産業界、法曹界、政界など各分野で活躍されている会員を講師に招いた「段戸フォーラム」、更に音楽、俳句、山登り、囲碁の同好の集まり「段戸サークル」があります。いずれも幅広い会員の交流の場となっています。

また、こうした活動は、年2回（春・秋）発行する「会報」、最新ニュースは「ホームページ」を通して、皆さんへお伝えしています。

このような諸活動は、各年次から選ばれた80名近くの「世話人のボランティア」と、会員の皆様からの「運営協力金」のご支援とによって支えられています。

これからも、人間的な手作りの感触を大切に、同窓の皆さんが安心して集まれるよう、会の運営に努めてゆく所存であります。つきましては、首都圏段戸会の諸活動を益々充実したものとするため、これまで以上に幅広く、多くの会員の皆様から運営協力金のご支援を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔運営協力金の主な用途〕

会報の印刷・郵送費用、世話人会費用、ホームページ運営費用、オープンキャンパス費用 等

も是非ご一読を！
 (村木)

新企画として「首都圏段戸会の歩み」の連載を始めた。今年後半70年となるが、期せずして、久しぶりに戦争体験を聞く機会を得た。段戸会の草創期を支えられた皆さんが、我々が通った同じ学舎で学生時代を送りながら、学徒動員、空襲で焼失した校舎の後片付けや戦後の学制改革に伴う混乱など、我々と全く異なる経験をされている。身近な方から、何の力みもなく話される戦中、戦後の話は、何かズシンと来るものがある。

編集後記

会報35号（平成27年4月発行）1ページに掲載された「第42回総会・懇親会報告」の執筆者の卒業年次が間違っていました。お詫びして訂正いたします。

(正) 高30回
 (誤) 高35回

会報35号の記事の訂正

